

厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究事業）  
（総括・分担）研究報告書

東京地下鉄サリン事件における長期的な医学的影響の記録のアーカイブ化のための研究

研究分担者 山末 英典 浜松医科大学 精神医学講座 教授

研究要旨 東京地下鉄サリン事件の医学的影響の研究報告を概観した。PubMed検索で同定した45編の報告のうち、42編は国内施設から報告され、東京大学と聖路加国際病院からその7割が報告されていた。また45編の3分の1は長期的影響の報告だった。

A．研究目的

東京地下鉄サリン事件における長期的な医学的影響の記録のアーカイブ化のために、必要となると考えられる検討事項を挙げる。医学的観点からみた同事件は、単一で特定された化学兵器への暴露という国際的にも稀な事件であり、アーカイブ化によって次世代にその記録・知見をつなぐことは国内的にも国際的にも責務がある。

B．研究方法

令和元年度は、東京地下鉄サリン事件における医学的影響についての研究報告の概観を行なった。  
（倫理面への配慮）倫理的な問題に触れない範囲で文献的検討を行った。

C．研究結果

PubMedで検索し("tokyo"[MeSH Terms] OR "tokyo"[All Fields]) AND ("railroads"[MeSH Terms] OR "railroads"[All Fields] OR "subway"[All Fields]) AND ("sarin"[MeSH Terms] OR "sarin"[All Fields])、89編の報告を同定した。総説や提言やコメントなど（36編）、動物実験（2編）、地下鉄サリン事件被害者のデータを含まない臨床報告（6編）を除くと、地下鉄サリン事件での急性暴露についての報告（30編）と長期的影響の報告（15編）が認められた。これらの45編中42編は国内施設からの報告だった。

D．考察

国内からの42編の報告はその多くが、東京大学21編（精神医学（10編）、公衆衛生（8編）、神経内科（2編）、法医学（1編））や聖路加国際病院8編など、同一施設からのもので、資料保管やアーカイブ化の倫理面の問題が解決出来れば、報告の元となっている診療録や研究資料にアクセス出来る可能性があると思われた。

E．結論

地下鉄サリン事件についての医学的影響の報告は国内の限られた施設から集中して行われており、資料保管やアーカイブ化の倫理的問題が解決出来れば、アクセスの可能性があるとと思われる。

F．健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記入

G．研究発表

1. 論文発表  
該当なし
2. 学会発表  
該当なし

H．知的財産権の出願・登録状況  
（予定を含む。）

1. 特許取得  
該当なし
2. 実用新案登録  
該当なし
3. その他  
特になし